

第68期 株主通信

2021年4月1日 ▶ 2022年3月31日

サトー 佐藤食品工業株式会社

証券コード：2814

株主の皆様へ

平素は、格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。
ここに、当社第68期（2021年4月1日から2022年3月31日まで）の事業の概況をご報告申し上げます。

2022年6月

代表取締役社長 **上田 正博**

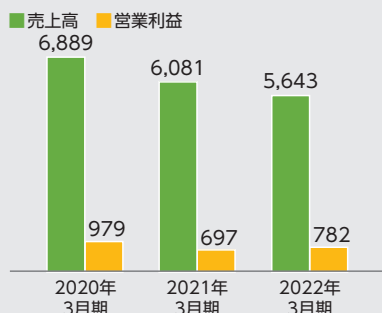
業績ハイライト

当社WEBサイトでは、決算短信や有価証券報告書など、詳細な財務情報を提供しております。

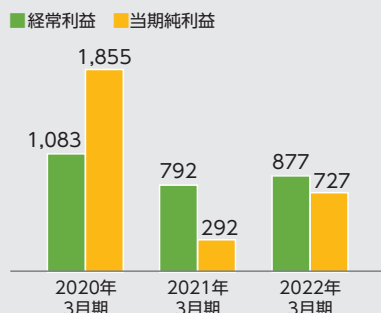
佐藤食品 IR

検索

売上高／営業利益（単位：百万円）

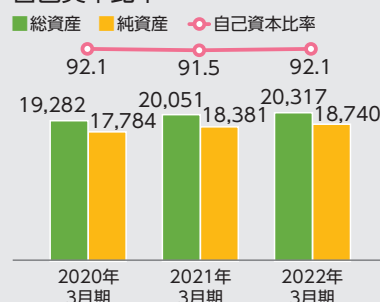


経常利益／当期純利益（単位：百万円）



総資産／純資産（単位：百万円）

自己資本比率（単位：%）



役員一覧（2022年6月28日現在）

代表取締役社長	上田 正博
取締役	鈴木 宗行
取締役	大津 新司
取締役相談役	清水 邦雄
取締役相談役	長谷川 憲治
取締役（社外）	秦 博文
取締役（社外）	光田 博充
監査役	垣見 泰年
監査役（社外）	串田 正克
監査役（社外）	稲石 純二

会社概要（2022年3月31日現在）

本社	愛知県小牧市堀の内四丁目154番地
設立	1954年10月
資本金	36億7,227万5千円
従業員	175名
工場	本社工場 愛知県小牧市 第二工場 愛知県小牧市 第三工場 愛知県春日井市

株式の状況（2022年3月31日現在）

発行可能株式の総数	27,000,000株
発行済株式の総数	4,215,048株 (自己株式5,111,412株を除く)
株主数	1,155名

株主優待制度のご案内

対象	毎年3月31日現在の株主名簿に記載された500株以上の株式を保有される株主様
優待内容	500株～999株 1,000円相当の当社製品（茶エキスパウダー） 1,000株以上 3,000円相当の当社製品（茶エキスパウダー）
発送時期	毎年6月を予定しております

佐藤食品の茶エキスパウダー

当社の茶エキスパウダーは、水に溶かすだけで、誰でも簡単に本格的なお茶をつくることができます。冷水にもお湯にもサッと溶けるので、大変便利です。おいしさはもちろん、持ち運びも簡単で茶殻が出ない等、様々な特徴を有しております。是非この機会にご賞味ください。

【写真は 3,000円相当の当社製品（茶エキスパウダー）】



単元未満株式の買増・買取制度について

口座のある証券会社へお申し出ください。特別口座を開設されている株主様は、口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社（TEL 0120-782-031）までお申し出ください。

2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用しております。（※2021年3月期以前の数値は適用していません。）



サトーは、独自の「粉末化」技術で 天然食品の可能性を追求し、グローバルワンを目指します

製品分野のご紹介



茶エキス ● 売上高: 2,318百万円

緑茶、ほうじ茶、紅茶、烏龍茶、麦茶、玄米茶、抹茶、ジャスミン茶、ルイボス茶等

お茶本来の風味を余す所なく粉末化

用途

インスタント茶、給茶機・カップ式自動販売機、製菓、健康食品など



植物エキス ● 売上高: 705百万円

イチゴ、レモン、巨峰、りんご、バナナ、オレンジ、ブルーベリー、栗、ゆず、ネギ等

果実や野菜のフレッシュな風味をそのまま粉末化

用途

製菓、健康食品、粉末飲料など



天然調味料 ● 売上高: 2,493百万円

鰹節エキス、昆布エキス、椎茸エキス、酢、魚介エキス（鮭、エビ、真鯛）等

※粉末調味料と液体調味料を合算して表示しております。

天然素材の豊かな味と香りを閉じ込めました

用途

つゆ、たれ、スープ、ドレッシング、製菓、プレミックスなど



粉末酒 ● 売上高: 119百万円

赤ワイン、白ワイン、清酒、ブランデー、ラム、みりん等

世界主要17カ国で製法特許を取得！当社の名を
世界に広めたオンリーワン技術です

用途

製菓、プレミックス、スープなど

当期の概況

当事業年度における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症（以下、「本感染症」といいます。）の感染が拡大し断続的に緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出されたことで、社会経済活動が制限され、厳しい状況となりました。10月以降は本感染症のワクチン接種の進展や新規感染者数の減少により、一時的に社会経済活動再開の動きが見られたものの、1月以降は新たな変異株により感染が急拡大し、その後の新規感染者数が高止まりしていることや、ロシア・ウクライナ情勢の影響により資源価格が高騰するなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。海外経済につきましても、本感染症のワクチン接種の進展などにより社会経済活動が再開され、欧米を中心に景気は緩やかな回復基調となりました。一方で、一部の国や地域では本感染症の感染再拡大により社会経済活動を制限していることや、緊迫するロシア・ウクライナ情勢など、依然として先行き不透明な状況が続くものと予想されます。

当食品業界につきましては、本感染症の感染拡大防止のために外出自粛や在宅勤務が推進されたことで外食需要が落ち込み、内食需要が増加しました。また、テイクアウトやデリバリーサービスを利用した中食需要が増加するなど、消費者の購買行動や生活様式が変化、多様化したことで事業環境が大きく変化しました。

当社といたしましては、顧客、取引先及び従業員の安全確保を最優先に、感染拡大に伴う一時的な操業停止のリスクを避けるため、マスク着用や手洗い消毒、食事場所や休憩室のエリア分けを行い、社内での感染拡大防止に努めるとともに、Web会議システムを活用した、リモートによる展示会やセミナーへの参加など、国内の感染状況に応じた対策を講じることで、事業活動を継続してまいりました。

このような状況のもと、当社の当事業年度における売上実績は、前事業年度から、天然調味料を中心に緩やかな回復基調で推移しました。

当事業年度における売上高は、茶エキスにつきましては、外出自粛や在宅勤務推進による外食・オフィス需要の減少が継続した結果、緑茶エキス・ほうじ茶エキス等が減少したため、売上高は2,318百万円となりました。

粉末天然調味料につきましては、家庭内調理需要の継続や外食需要の回復傾向により、粉末鰹節等が増加したため、売上高は1,809百万円となりました。

植物エキスにつきましては、洋和菓子・デザート類市場における果実エキス需要の回復傾向により、野菜エキスが減少したものの、果実エキス等が増加したため、売上高は705百万円となりました。

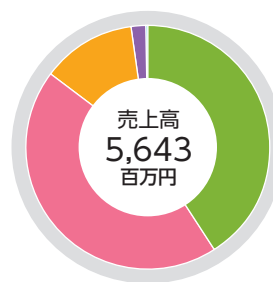
液体天然調味料につきましては、家庭内調理需要の継続や外食需要の回復傾向により、鰹節エキス等が増加したため、売上高は684百万円となりました。

粉末酒につきましては、製菓用途需要が減少したことにより、ラムタイプ等が増加したものの、ワインタイプ等が減少したため、売上高は119百万円となりました。

以上の結果、当事業年度における売上高は5,643百万円となりました。

利益面につきましては、売上原価の減少により営業利益は782百万円（対前年同期比12.1%増）、経常利益は877百万円（同10.7%増）となりました。また、法人税等150百万円（同69.4%減）を計上したため、当期純利益は727百万円（同148.8%増）となりました。

売上高構成比



■ 茶エキス	41.1%	2,318百万円
■ 天然調味料	44.2%	2,493百万円
■ 植物エキス	12.5%	705百万円
■ 粉末酒	2.1%	119百万円
■ その他	0.1%	5百万円

中長期の取り組み

特に下記の3点を重点課題として取り組んでおります。

① 安全・安心な製品の提供

品質保証プロセスにおけるITシステムを活用した業務改善。

② 生産性の向上及び合理化

原材料コスト変動リスク等に対処した、利益を生み出しやすい生産体制づくり。

③ 高付加価値製品の開発

製販一体となって、顧客ニーズの開拓、それにすばやく応えることができる体制づくり。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。